



ゴミ出しルールの考え方

大地震発生時には、道路の寸断やごみ処理場の停止などから、ごみの回収が数日間～数週間停止することが想定されます。その場合、すぐにゴミ置き場がいっぱいになり、衛生的に悪化します。所定のゴミ置き場以外にゴミを保管するスペースを確保できるかを考慮し、マンション内での災害時のゴミ出しルールを検討しておきましょう。

ゴミ出しルールの決め方

ゴミ出しルール 方法 1

各家庭でゴミ回収が開始されるまで、各家庭でゴミ保管を行う。

各居住者の住戸内やバルコニーでの保管とする。
所定のゴミ置き場を閉鎖するとともに、各居住者へその旨を告知する。

ゴミ出しルール 方法 2

臨時のゴミ保管スペースで、ゴミ保管を行う。

マンション敷地内に臨時のゴミ保管スペースを確保し、その旨を居住者へ告知し、運用を開始。
ごみの種類によって保管場所を分ける。



3種類の ゴミの対処を 考える

震災ゴミ

汚物

生活ゴミ

大地震によって壊れた家財やガラスなどの「震災ゴミ」、家族の排泄物をまとめた「汚物」、日々の食事や生活で発生する「生活ゴミ」の3種類に分類して考えます。
(尚、自治体ルールに従った分別をする必要もあります。)

震災ゴミ

壊れた家具や食器、ガラス製品、家電製品など、災害によって被害を受けて使えなくなった物全般を指します。ゴミ収集が止まっている状況で住民全員が出したらマンションのゴミ置き場はすぐに一杯になります。

対処方法

自治体のゴミ集積が再開されるまでは、各住戸でゴミを保管するよう周知します。表に積み上げておくと、ゴミがゴミを呼び、マンション外の人がゴミを捨てにくることもありますので、なるべく住戸外に出さないように災害対策本部から居住者へ通知します。

汚物

マンション内での滞留生活において排水できない場合には、トイレが使えず排泄物などがたまります。これらは汚物として分け、消臭等の衛生対策が必要となります。

生活ゴミ

普段の生活で発生するゴミ類です。食事の生ゴミなども生活ゴミに含まれます。生ゴミも消臭等の対策が必要となります。

→ ポイント

災害後のゴミ処理問題は深刻です。特に排泄と直結しているため、いかに衛生的な状態を維持できるか、マンション全体での協力体制が必須となります。